

## Ramsar COP10 side event

### 世界の水田

-- その生物多様性と持続可能性 --

### Rice Paddies in the World -focussing specially on their biodiversity and sustainable use-

**Date: 31 October    Time: 18:15-19:45 h    Room: CECO I**

#### organized by

Japan NGO Network for Ramsar COP10 (日本ラムネット) (contact Masayuki KURECHI [son\\_goose2@vbb.ne.jp](mailto:son_goose2@vbb.ne.jp))

Korea NGO Network for Ramsar COP10 (韓国ラムネット) (contact HAN Dong-Uk: [ecoguideuk@gmail.com](mailto:ecoguideuk@gmail.com))

ラムサール条約で、湿地の一つと定義されている水田は、少なくとも世界 114 カ国に存在するが、何千年にもわたり維持されているものや、多様な生物の生息地となっているものが少なくない。特にアジアモンスーンの高湿多雨の気候風土と調和したアジアでは、水田は最大の湿地面積を占め、稲を基盤とした多様な生態系を育む農業湿地としての機能を持つ。2005年のCOP9会議中に、日本、韓国NGOがサイドイベント「田んぼ～驚くべきアジアの湿地～」を共催し、

1) 渡り鳥など多くの生物の生息地としてのアジアの水田が重要なこと、2) 社会経済状況の変化が、水田の喪失と湿地としての質が劣化をもたらしたこと、3) 湿地としての水田の機能を回復する手法としての、「ふゆみずたんぼ」に注目し、4) 2008年に韓国で開催されるCOP10で、水田の農業湿地としての価値に注目する決議採択を締約国政府に働きかけることを、確認した。

COP10では、決議案X.31(日韓政府が、湿地生態系としての水田の生物多様性を高める)を提出しているが、本サイドイベントで、この水田決議の重要性と必要性を様々な視点から論じ、会議参加者の同決議案に対する理解を深めることをめざし、更に同決議を今後の取り組みに活かすための戦略についての議論も行う。

#### プログラム

- 1) 趣旨説明 (3分)
- 2) 映画; 田んぼ～生きものは語る～(映画「田んぼ」制作委員会) (10分)
- 3) 水田決議の経緯
  - ① [ ] 韓国環境部/ 日本国環境省 (8分)
  - ② [ ] 日本ラムネット/ 韓国ラムネット (8分)
- 4) 水田生態系を基盤とした伝統的なアジアの稲作 (12分)

西宮 洋(地球環境戦略機構)
- 5) 持続可能な水田農業と生物多様性 (12分)

ムハメド・グラム・キブリア (国連食糧農業機関[FAO]アフリカミッション)
- 6) 水田を活かした湿地の総合管理; スペイン・エブロデルタでの「水鳥のための水田農業」と地域づくり (12分)

イグナシ・リポール (リエット・ヴェル社[スペイン鳥学会が運営])
- 7) 総合討論とまとめ;  
「水田決議を生物多様性水田農法を発展させる道具とするための戦略」 (25分)